

メンバーの方々とも席を並べて食事をしながら話ができる。そこに一つの大きな学びがあった訳でございます。

私は、ロータリーは人間が人間を学ぶ場所だと考えており、その人のご飯の食べ方一つ、箸の持ち方一つ、言葉の出し方一つ、それぞれが皆、自分の軌道修正に役立つものと思っております。ですから、親睦だと銘打って酒を飲む場所だけではないはずでございますし、親睦の中には何かの学びがなければなりません。

私が公式訪問で白根のクラブに行った際、ガバナー挨拶時「後で親睦会があるだろうけれど、酒を注ぎに出られるのは会長幹事と親睦委員長だけだ、その他の者は特にうろうろする必要はない。会の酒で『こないだは御世話になりました』と自分の礼を仁義こいて言う必要はない。だからガタガタするな」と憎まれ口を利いたことがあります。その日、白根の子供達の舞踊団の舞踊があったのですが、後で「こんなに行儀の良いクラブに初めて出会いました」と大変誉められたそうです。

宴会にいたしましても、古くから日本人が伝承してきた宴会の仕方があります。それなのに最近では芸子さんの踊りが始まろうというのに主賓の前に座り、「隣の猫が子を産んだ」ような、つまらん話をガバナー主賓が話している。そんなことが当たり前のような宴会になってきていると私は常々嘆かわしく思っております。

私の同年の者が、京都で宴会をしたいからと席を用意した時の話。芸子さんは三味線を構え黙って待ち、絶対に始めようとしません。何故始めないのかというと、その人はお膳の前で酌をして歩いている。芸子さんが「お下がり下さい」と言わないのは、客に恥をかかせることになるから言わないのです。

日本の宴会の美しさは、だんだんと忘れられようとしています。古き中には捨てるべきものもございますし、改めるべきものもございます。でも捨ててはいけないもの、残すべきものもあると認識したならば、これを残す努力をすることも私達の一つの責任であろうかと思ひますし、次の者達にもこれを伝える責任があるわけでございます。

ただ酒を飲み、注ぎ合い、ワアワア騒げば親睦ができるということは違う。と先輩から教えられてきたわけですので、これを次の人達に伝える責任があると思うのでございます。

話は逸れましたけれども、もう一つこれからのロータリーで考えなければならないことがあります。それは2004年に大阪を中心とした国際大会。それが開かれるとい計画は着々と進んでおります。

京都・大阪・神戸・和歌山これらを一丸とし、世界中のお客様をお迎えしようと、大きなことを言っております。45000人集めたい。かつてない人間を集めたいという計画を、日本の責任者が話しをして居られました。

皆さんもやはり、今から計画し、世界大会の様子をご覧になることも良い勉強になるのではないかと思います。

梨本清一君 三条新聞社主催“久保さんと登らん会”に参加し金時山に行って参りました。役員の小林繁ちゃん、安田さんは大活躍でした。山崎専務のお顔は見えませんでした。

大野新吉君 藤田説量先生本日の卓話有難うございます。

落合益夫君 藤田先生ご指導よろしく申し上げます。

青木省一君 ゴルフ遠征幹事大橋サンご苦労様でした。

羽賀一夫君 ゴルフの遠征の一日目に優勝と競馬が入りました。

米山忠俊君 大橋幹事、丸山幹事、駒形幹事に昨日、一昨日とゴルフ同好会の福島旅行で大変お世話になりました。皆さんと一緒に大変楽しい旅でした。

阿部勝子君 新年会の際、私のミスで怪我をしたのですが想いもかけずオレンジを沢山載き迷惑をお掛けしました。ありがとうございました。今日の卓話藤田様お待ちしております。宜しくお願い致します。

石川友意君 藤田パストガバナー、坪井先生を歓迎して!!

今井克義君 藤田先生、卓話ありがとうございます。お顔を拝見する度に北R・Cの誕生の頃の初心にもどる気持ちになります。いつまでもお元気で。

山口茂夫君 藤田先生の卓話を拝聴させていただきます。

山崎勲君

柄沢憲司君 協力します。

山口龍二君 BOX協力。

* 1月のコメント賞は今井克義会員でした

* 先週28日新年会のお帰りの際に皆様からご協力頂きました、寄付はR財団と折半でそれぞれ入金させて頂きました。

卓 話： 「最近のロータリー」 パストガバナー藤田説量様



最近のロータリーということでございますが、ロータリーはどんどん変わって参りまして、私がガバナーを務めさせて頂きましたのは'86年～'87年ですからもう大昔のことでございます。

今、ロータリーが使っている色々な言葉で私が解らない言葉は沢山ございます。そのように『時代の流れと共に変わらなければならない』というロータリーの宿命的なものもあろうかと思いますが、特に変わりましたのは私の年度からなのでございます。どうということかと申しますと、私の年度より前この地区でいうと上の年度でございます

が、その6月の最後のガバナー会でポリオプラス計画に協力するということを決定したのですが、7月既に交代の時期が迫っていました。

この計画をお解りにならない方もあろうかと思いますが、そのことについてご説明をさせてもらいたいという気持ちで本日は参った訳でございます。

では何故変わったのかと申しますと、ロータリーでは会長が1年毎にその生涯、会長を引き受けるまでの間温めてきた社会に対する奉仕をなさいます。次の年度に引き継がない形をとるわけでございます。

この1年毎の社会奉仕という指導（規定の中の23の34とい手続き要覧の中にございます）は1923年34番目の規定に承認され、のちの日本ロータリアンの基本読本となっていたのでございます。昔のロータリアンはそれをよく勉強し、それぞれの年度の責任を果たしてこられました。

しかしポリオプラス計画とは5年を通して行わなければなりません。それまでは1年毎の計画ということでありましたので、当時の事務局長はこれを反対し、会長と意見が対立、のちに事務局長は交代に至ったと聞きました。それほど大きな変革でございましたし、本部で大変な問題として論評されたそうです。

この計画とは、1年や2年ではとても実現できるものではないので、5年計画で基金を集め、世界中の小児麻痺の子供達の命を救おうという計画であります。それまでは自分の地域は自分たちの力で何とか良い方向に向くよう、奉仕をしようではないかということが我々の方針でございましたし、社会奉仕の基本は職業奉仕であり、真実に基づく考えで、人々が信頼しあえる職業人となり、社会性を考えた日常生活を行おうということが基本でありました。

極めて大きな「5年間金を集めろ」という計画は、前年度のガバナー会が決めたことです。しかし「やる」と決めただけでした。実際に金集めをやらされたのは私、そして任務でした。各クラブを廻り、そのお願いをするということは大変な抵抗がありました。「年度を超えた計画は基本方針に反する」と、ロータリーを勉強しておられる方が多いクラブであるほど反対もされました。しかしユニセフの社会児童基金と組織協力し、敢えてそこでお願いしたのです。ユニセフは日本が敗戦後、日本の児童達を救済することを主な目的とし、結成された児童基金です。そのお陰で日本の児童は食糧の供給を受けられましたし、そのおこぼれで大人達も命を繋げられました。

その時のユニセフの活躍に恩義を感じておりましたので、恩返しをする最善の機会ということをごバナー会で述べたのでございます。戦後の日本の児童を救ってくれたユニセフに協力し、恩返しをすることが我々の責任の一つではないかと。

そしてロータリーのメンバーに1人8000円づつ5年間に渡り、抛出してもらうことが決まり、ついに5年目、目標に達しました。世界中のポリオを撲滅する計画を実施出来る見通しの元、ロータリーは完遂宣言を致しました。些か私も協力したということで文鎮を頂きました。

しかし、電気もない冷蔵庫もない所へポリオを防ぐ薬を持ち込むこと自体、大変な事業でございました。想像以上に金がかかり、途中で薬が無効になるという事態もあったようです。フィリピンはすぐ翌年、ポリオが全滅したという宣言をしておるようでございますが、まだまだ未開の地は沢

山ございまして、徹底するには至りません。それでもう少し金を集めなければならない状況に立ち至ったのが現在の状況でございます。

このことにつきましては、原ガバナーが国際協議会で勉強し、触れられることでしょうし、実際に計画をお示しになることと思いますので、それを待ちたいと思いますが、2005年までの3年間で1人150\$くらい集めてもらいたいという要望、世界中の募金の2割くらいは日本に期待することらしいので、兎に角これから第二期の募財をお願いせざるを得ないという状況に至ったわけです。

金は出しても実際に活動するのは、その地域のロータリアン等ですが、実際日本からそのポリオを子供達に与えるために協力し、活躍した方が居られます。ある会で私の隣の席になりました。その方は「ヤマダツネ」とおっしゃいまして、池袋のメンバーだったと思います。その際に「私はこの通り元気です。私の脚に触ってみてください。」言われましたものですから、触れてみると、カチカチの脚をし、自信に満ち溢れた方でございました。ですが、その方は1年半程して突然急逝されました。風土病に罹られたと感じております。そういう先輩方が色んな犠牲を払って今日までやって参りました。その最後の詰めが、今欠けようとしているので、皆さんに協力して欲しいという話が勉強会にも出ております。

私の同期、ナカジマシュウイチロウ君が日本の責任者としてやっておりますもので、私は彼に資料を請求しましたところ、2002年にポリオが発生した国別件数、アフリカ地域151件、東地中海地域（アフリカ～ソマリア）99件、東アジア地区（インディア）1282件と解ったところで1532件と出ておりますが、統計の取れない地域等を考えますと、まだ相当の発生件数があるかと思いますし、世界からポリオの小児麻痺菌を抹殺しなければ決して、発生しない国でも安心は出来ない状況です。

ポリオプラスファイブという言葉がありますが、これは麻疹・破傷風・百日咳・結核・ジフテリアとい子供達が命を失い易い病気のことを言い、ポリオの薬はポリオだけではなく、プラスファイブのことも考えて調合されている事と思います。

ロータリーは自分の本来住んでいる地域に対してどう奉仕をするか。

私達は日常生活を送る中で、社会性を持った物の考え方をどういうふうに発展させるか、ということがロータリーの命題でございます。

最初に私共がロータリーに誘われた時は、大変偉い旦那衆の集まりだと怖じ気づいていたのですが、私は三条の会社のクワバラケンイチ先生に「君は檀家さんとはつき合いがあるだろうが、他の人とは付き合いがないだろうから、そういうところへ顔を出して勉強しろ」と誘われました。しかし「我々のような貧乏な寺の顔を出すところではございません。私の寺はカステラですから。（我々の中で貧乏な寺を文明堂あるいはカステラと呼んでいる）」と言いましたが、「入れ入れ」と言われついに入りました。

やはり入りますと、色々人様に学ぶことができ、かつては雲の上の直接話をする事ができない